

令和7年度 きゅうり技術情報No.1

大船渡農業改良普及センター
電話:0192-27-9918 FAX:0192-27-9936



- 1 【ハウス】換気や通路かん水で適度な温湿度を維持しましょう。
- 2 【露地】 計画的に定植を進めましょう。
- 3 【病害虫】 5～6月は黒星病、斑点細菌病に注意しましょう。

1 ハウスきゅうり

(1) 温度、湿度管理

日中の気温は **24～28℃**、夜間は **12～14℃**、湿度は **70～85%** を目安に管理します。晴天による気温上昇が予想される場合は、早めの換気と積極的な通路散水により、適度な温湿度を維持しましょう。

(2) かん水

1 日のかん水量の目安は**収穫開始までは株あたり 1.0～1.5L**、**収穫開始以降は 2.0L** です。曲がり果や空洞果などの発生が多い場合にはかん水量を増やしましょう。

(3) 整枝管理

表1を参考に品種特性に合わせた管理を行いましょう。

(4) 追肥

収穫開始頃から追肥を行います。追肥量の目安は、収穫量 **800kg(160ヶ-畝)/10a** ごとに窒素成分で **2.5～3.0kg** です。かん水と合わせて実施し、草勢を維持しましょう。

表1 ニーナZの整枝管理のポイント

品種	管理のポイント
ニーナZ	主枝一番果は株元から50～60cmの高さに着ける。カ枝は伸ばさない。 上段・下段の側枝は1節止め、中段の側枝は1～2節止め、孫枝は1節止めにする。

※メーカー資料をもとに作成

2 露地きゅうり

- (1) 圃場準備
耕起・畦立て・マルチ張りは、**定植の1週間前**までに実施しましょう。
- (2) 圃場における排水対策
梅雨期、台風に備えて**排水対策（排水溝、明きょ等）**を実施しましょう。
- (3) 定植後の管理
定植後1週間程度は、株元を乾かさないように**かん水**を実施しましょう。
悪天候時には500倍程度の液肥を1ℓ/株を目安に散布し活着促進しましょう。
- (4) 整枝管理
表2を参考に品種特性に合わせた管理を行いましょ。

表2 品種別の整枝管理のポイント

品種	管理のポイント
大望1号、なついろ	力枝は10～13節から伸ばす。主枝の一番果は株元から50cmの高さに着ける。側枝は下段では1節止め、中段以降は2節止めにする。孫枝以降は半放任にする。ただし、なついろは中段の枝が出にくい場合があるため、ある程度（3～4節）伸ばしてから止める。
豊美1号	力枝は株元から40cm以上の高さから伸ばし、2本仕立てにする。主枝一番果は株元から50cmの高さに着ける。力枝以外の側枝は1～2節止め、孫枝以降は半放任にする。
なつめく	力枝は伸ばさず、1本仕立てにする。主枝一番果は株元から50cmの高さに着ける。下段の側枝は1節止め、中段以降の側枝は2節止め、孫枝以降は半放任にする。

※メーカー資料等をもとに作成

3 病害虫防除

- (1) 薬剤散布のポイント
 - 防除暦や図1を参考に、**計画的に薬剤散布を開始**しましょう。農薬を使用する際は必ず農薬ラベルを確認し、**使用基準を遵守**してください。
 - 薬剤散布では、**アーチの内側と外側の両側から散布し、葉の表裏、下位葉**まで十分な量の薬液がかかるようにしましょう。特にアーチ上部は、薬剤が付着しにくいいため注意が必要です。
 - 病気がまん延した後では薬剤の効果が低くなります。**病気が疑われる葉は**見つけ次第、**摘葉**し、発生が少ないうちに**特別散布を実施**しましょう。

- ハウス品種の「**ニーナ2**」、露地品種の「**なついろ**」、「**なつめく**」のような**耐病性品種**であっても、**草勢が低下**すると**病気が増加**しやすくなります。品種特性が十分に発揮されるように、定期的な薬剤散布や追肥、かん水などの**基本管理を徹底**しましょう。

(2) 5月～6月に注意が必要な病害虫

- **黒星病**と**斑点細菌病**の発生に注意しましょう(図1、図2)。ハウスでは**アザミウマ類**や**ハダニ類**などの害虫の発生が早まる可能性があります。生育初期から注意しましょう。

病害虫名	4			5			6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アザミウマ類(ハウス)																					
ハダニ類							■	■	■	■	■	■									
べと病										■	■	■	■	■	■						
うどんこ病										■	■	■	■	■	■						
黒星病・斑点細菌病							■	■	■							■	■	■			
炭疽病・褐斑病													■	■	■	■	■	■			

□:発生時期 ■:重点防除時期

図1 病害虫の発生時期の目安



図2 5月～6月に注意が必要な病気

- **黒星病**は、**発病適温が 17～20℃**と**低温性**の病害です。定植時や収穫期後半に降雨が続くと多発します。特に生育初期に多発すると、被害が大きいだけでなく、後半まで防除が必要となりますので、予防散布に努めてください。
- **斑点細菌病**は、**発病適温が 20～25℃**、**多湿条件下**で発生しやすい病害です。露地栽培では、6月、9月ごろに発生が多く、降雨が続くと発生が助長されます。**6月下旬から7月中旬に予防散布**を行い、重点的に防除します。この時期に防除ムラがあると、気温が低下し降雨が多い8月下旬以降の伝染源となります。

4 ホモプシス根腐病対策 管内で発生が確認されています！

- (1) 収穫開始から8月にかけて発生が多くなります。収穫初期では、日中に**葉が萎れ**、夕方に回復します。萎れと回復を繰り返すうちに、徐々に**下葉から枯れ上がり**ます。
- (2) **土壌伝染性で空気伝染はしません。汚染圃場の土が人や機械を介して移動し伝染します。**
- (3) 対策は、**土壌消毒、土壌 pH の改良(目標 pH 7.5)**です。
- (4) 他の生産者の圃場を訪問する際は、**靴カバーの使用**や**ビニール袋で靴を覆う**等、病原菌の拡大防止に努めましょう。



日中は葉が萎れる



病気が進行し、枯れた株

図3 ホモプシス根腐病が発生したほ場



感染初期（細根脱落部が褐変）



感染末期（黒色の偽子座が形成）

図4 ホモプシス根腐病の根の病徴

★いわてアグリベンチャーネットメール会員募集中

農作物技術情報や農村地域の情報を幅広く提供する岩手県公式サイト「いわてアグリベンチャーネット」のメール会員を募集します。URL:<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/maillinglist.html>

★3月1日～5月31日は山火事防止運動月間です。

春は乾燥し、風が強い日が多いため、山火事が起こりやすくなります。

令和7年山火事防止運動統一標語「ふるさとの 山を守ろう 火の手から」

★4月15日～6月15日は春の農作業安全月間です。

農業機械の基本操作を守り、無理のないスケジュールで作業を行いましょう。

令和7年度岩手県農作業安全スローガン

「忘れずに！点検・確認・安全管理 無事故で終える収穫作業」